

3-3 地域の公共交通の現状

(1) 本地域の公共交通

本地域では、鉄道、都市間バス、路線バスが運行されているほか、各市町村を営業区域としたタクシー・ハイヤーが運行されている。

表 3-10 本地域の公共交通の現状

(1) 鉄道

事業者名	路線等	平日1日あたりの運行本数(上下計)	備考
J R 北海道	釧網線	14本	釧路駅発着本数
J R 北海道	花咲線	16本	釧路駅発着本数。根室駅発着12本
J R 北海道	石勝線・根室線	上17本 下18本	釧路駅発着本数

(2) 都市間バス

事業者名	路線等	平日1日あたりの運行本数(上下計)	備考
くしろバス・阿寒バス・中央バス共同運行	スターライト釧路号(釧路・札幌)	10本	コロナ禍により減便中
北海道バス	釧路特急ニュースター号(釧路・札幌)	8本	日曜日増便(上下各1)
阿寒バス・道北バス共同運行	特急サンライズ旭川・釧路号(釧路・旭川)	4本	
阿寒バス・北見バス共同運行	特急釧北号	4本	
根室交通	オーロラ号	1本	

(3) 路線バス

区分	系統数	運行事業者	備考
複数市町村にまたがる系統	28	くしろバス 阿寒バス 根室交通	地域間幹線系統 : 17系統 市町村単独補助系統 : 11系統
市町村内を運行する系統	75	くしろバス 阿寒バス 根室交通 市町村 タクシー・ハイヤー事業者	地域内フィーダー系統 : 22系統 北海道単独補助系統 : 19系統※ 市町村単独補助系統 : 34系統

出典: 令和2年度北海道地域間幹線系統確保維持計画書、令和2年度北海道生活交通路線確保維持計画書
(※系統数は、道路運送法第79条による自家用有償旅客運送を含む。)

※北海道単独補助系統: 広域生活交通路線維持事業、市町村生活バス路線運行費補助事業による補助対象系統

(4) タクシー・ハイヤー

区分	営業所在地	法人数	一般車両数	区分	営業所在地	法人数	一般車両数
釧路総合振興局管内	釧路市	7	207	根室振興局管内	根室市	3	40
	釧路町	3	172		別海町	1	3
	厚岸町	1	4		中標津町	2	21
	浜中町	1	3		標津町	1	3
	標茶町	1	4		羅臼町	1	1
	弟子屈町	2	16		法人計	17	411
	鶴居村	1	1		個人	45	45
	白糠町	1	4		合計	62	456

出典: 北海道運輸局より

(2) 鉄道の現状

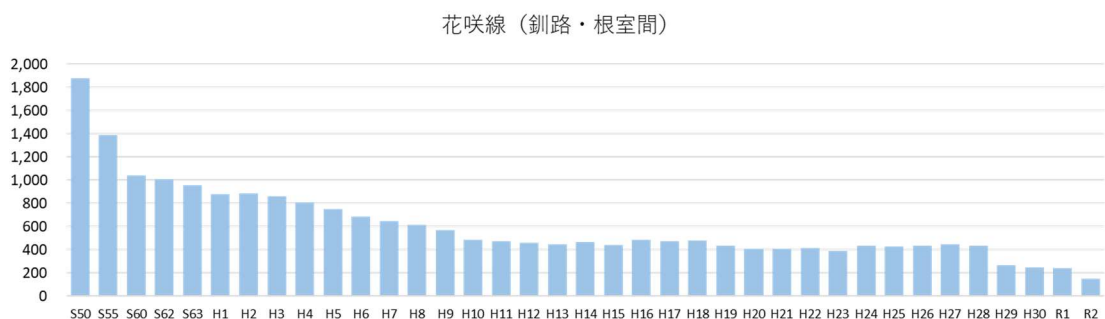
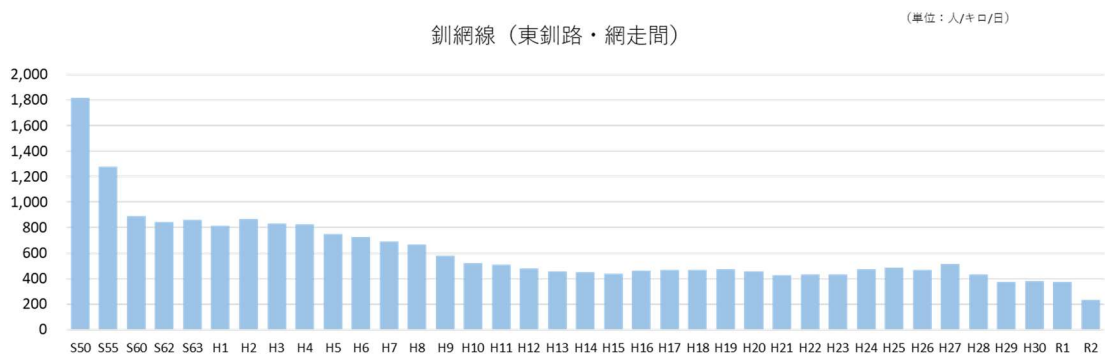
本地域における鉄道は、根室線（音別・釧路間）、花咲線（釧路・根室間）及び釧網線（東釧路・川湯温泉間）がJR北海道により運行されている。

花咲線は釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町及び根室市、釧網線は釧路市、釧路町、標茶町及び弟子屈町を結び、通学・通勤・通院や観光などに利用されている。

鉄道の利用者は減少傾向にあり、花咲線及び釧網線は、輸送密度が200人以上2,000人未満の線区に該当することから、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む事業計画（アクションプラン）を策定し、「花咲線（釧路～根室間）第2期事業計画（アクションプラン）」及び「釧網線（釧路～網走間）第2期事業計画（アクションプラン）」に基づき、地域の関係者が一体となり利用促進に取り組んでいる。

JR北海道の駅間通過人員のデータ（1日あたり平均（令和2年度（2020年度）））によると、花咲線では釧路・厚岸間、釧網線では東釧路・標茶間の通過人員が多く、利用券種は定期利用が花咲線で53%、釧網線で55%を占めている。

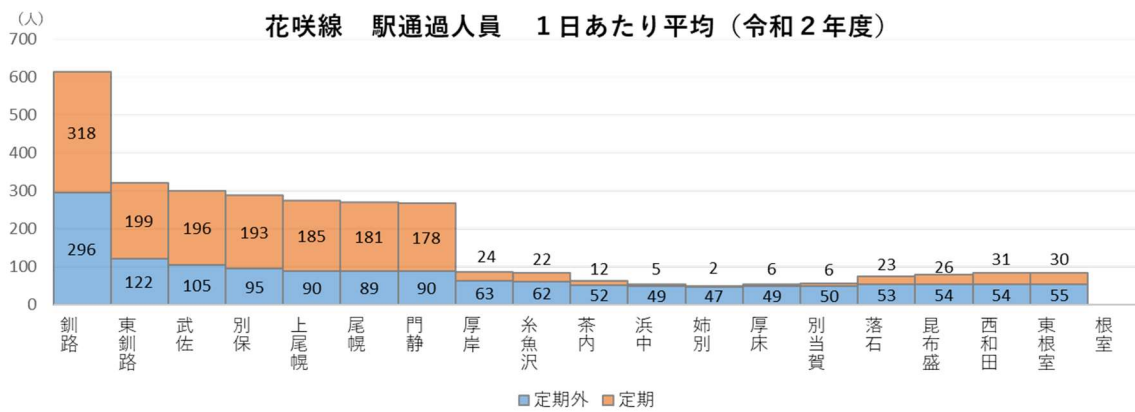
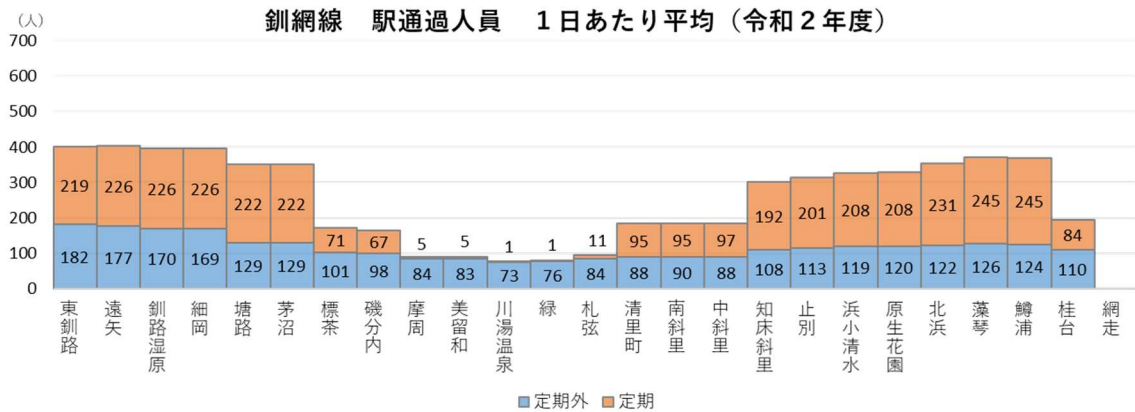
また、JR北海道の定期券月平均販売枚数のデータ（令和2年度（2020年度））によると、花咲線では通学定期が93%、釧網線では通学定期が96%を占めている。通学定期券の発売枚数の多い区間は、花咲線では、釧路・厚岸間、東釧路・厚岸間、落石・根室間、釧網線では、釧路・標茶間、東釧路・標茶間、釧路・摩周間である。



出典：輸送密度の推移（JR北海道）

(<https://www.jrhokkaido.co.jp/corporate/region/index.html>)

図3-24 釧網線・花咲線の輸送密度の推移



出典：駅間通過人員（JR北海道）
<https://www.jrhokkaido.co.jp/corporate/region/index.html>

図 3-25 釧網線・花咲線の駅通過人員

表 3-11 釧網線・花咲線の定期券月販売枚数（令和 2 年度（2020 年度））

区分		釧網線（単位：枚）	花咲線（単位：枚）
線区外	通学	4.8	9.7
	通勤	0	0
線区内	通学	251.4	108.2
	通勤	11.4	8.2
計	通学	256.2	117.9
	通勤	11.4	8.2

※ 1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計

出典：定期券月平均発売枚数（JR 北海道）

(<https://www.jrhokkaido.co.jp/corporate/region/index.html>)

表 3-12 釧網線・花咲線の通学定期券の発売が多い区間（令和 2 年度（2020 年度））

釧網線		花咲線	
区間	枚数（枚）	区間	枚数（枚）
釧路・標茶	35.3	釧路・厚岸	65.9
東釧路・標茶	34.3	東釧路・厚岸	9.4
釧路・摩周	19.1	落石・根室	8.7
東釧路・摩周	7.8	釧路・上尾幌	4.3
遠矢・標茶	6.8	釧路・茶内	2.8
釧路・塘路	2.8	東釧路・茶内	2.8
		厚床・根室	2.8
		西和田・根室	2.1
		釧路・浜中	2.0

※ 1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計

※ 2枚以上の区間を抜粋

出典：定期券月平均発売枚数（JR 北海道）

(<https://www.jrhokkaido.co.jp/corporate/region/index.html>)

(3) 路線バスの現状

① 本地域における路線バス

(運行地域)

本地域における路線バスは、くしろバス、阿寒バス及び根室交通の3社により運行されている。くしろバスは釧路市内、釧路市と釧路町・厚岸町・白糠町を結ぶ路線を運行し、阿寒バスは釧路市内、弟子屈町内、中標津町内、羅臼町内、釧路市と釧路町・標茶町・鶴居村・別海町・中標津町・標津町・羅臼町を結ぶ路線、標津町と標茶町を結ぶ路線を運行し、根室交通は根室市内、根室市と別海町・中標津町を結ぶ路線を運行している。また、くしろバスと根室交通は共同で釧路市と根室市を結ぶ路線を運行している。

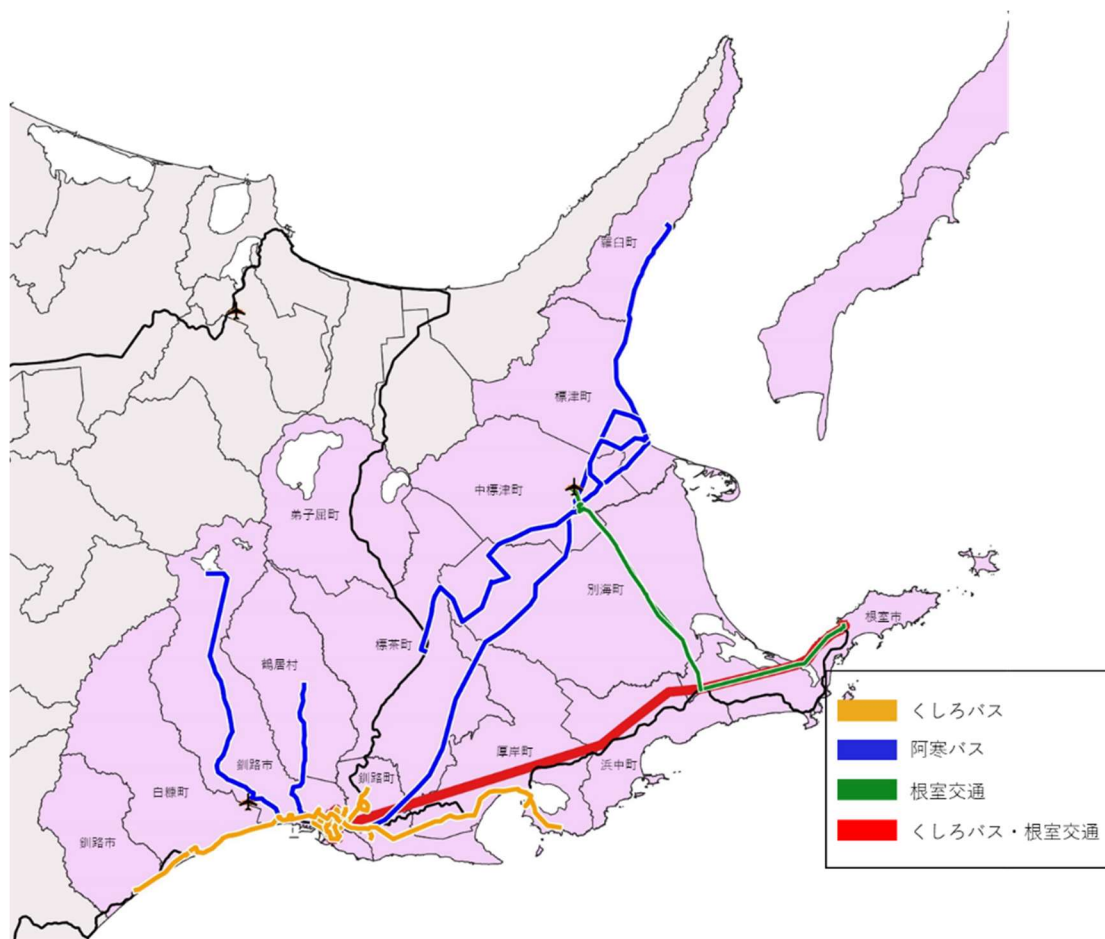


図 3-26 本地域の主な広域バス路線

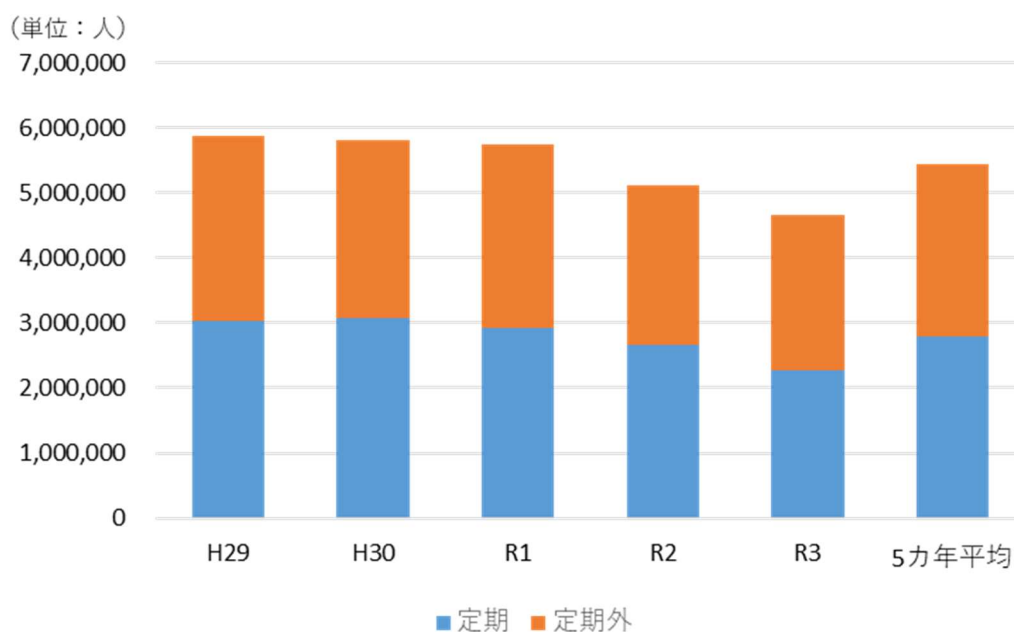
(輸送人員・運送収入)

本地域におけるバスの輸送人員は、年々減少傾向にあり、近年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少している。

路線バスを運行する3社の輸送人員のうち、定期券利用が過半数を超えている。バス事業者ごとにみると、くしろバスは約6割、阿寒バスは約3割、根室交通は約1割が定期券利用となっている。

本地域における運送収入は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、コロナ以前と比べると減少している。

3社の合計では、一般乗合が過半数を超えている。バス事業者ごとにみると、くしろバスは約7割、阿寒バスは約3割、根室交通は約4割が一般乗合となっている。



出典：バス事業者

図3-27 本地域のバス事業者の輸送人員の推移
(各年度は前年10月1日から当年9月30日まで)

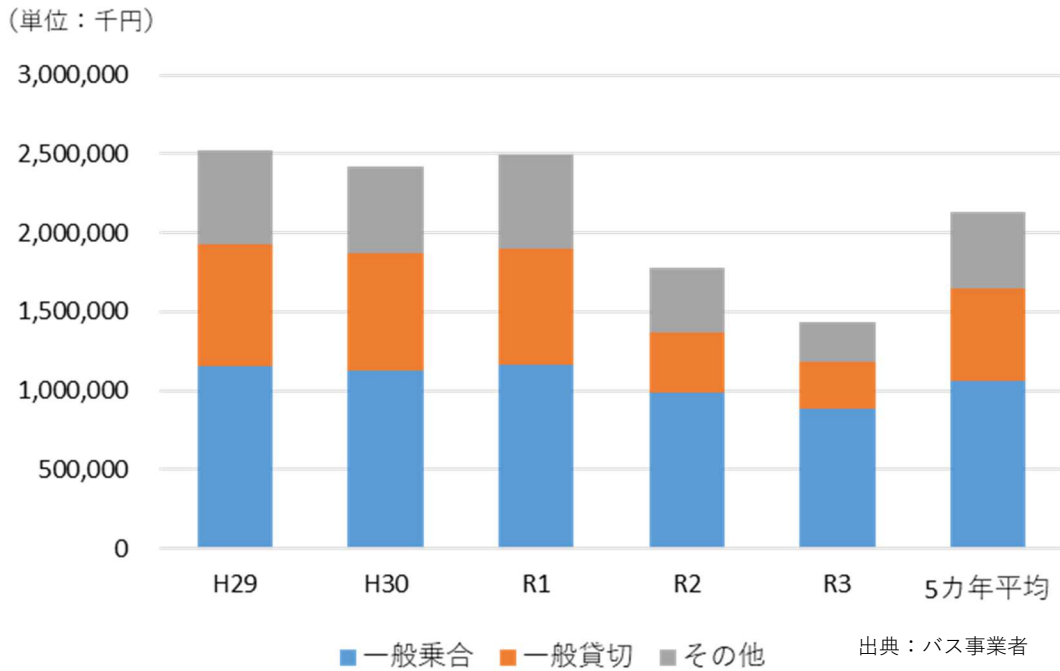


図 3-28 本地域のバス事業者の運送収入の推移
(各年度は前年 10 月 1 日から当年 9 月 30 日まで)

(運転手の在籍状況)

バス事業者からの聞き取りでは、本地域におけるバス事業者の運転手は、高齢化しており、約 7 割が 50 歳以上であることから、今後、運転手の退職等による運転手不足が懸念されている。バス事業者ごとにみると、くしろバスは約 7 割、阿寒バスは約 8 割、根室交通は約 7 割を 50 歳以上の運転手が占めている。

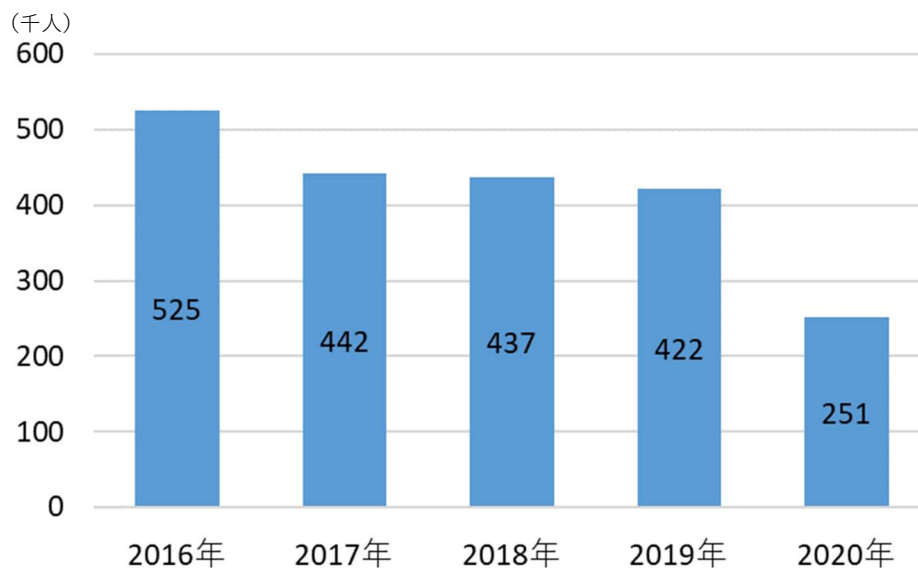
②病院送迎バス

釧路市内の病院が、路線バスと重複し、弟子屈町・標茶町方面、標津町・中標津町・別海町方面、根室市方面から患者を送迎するバスを運行していたが、令和 4 年（2022 年）1 月をもって廃止した。このため、バス事業者はこれまでどおり利用者が通院できるように、既存の路線バスの経路を当該病院を経由するよう経路を変更した。

(4) その他

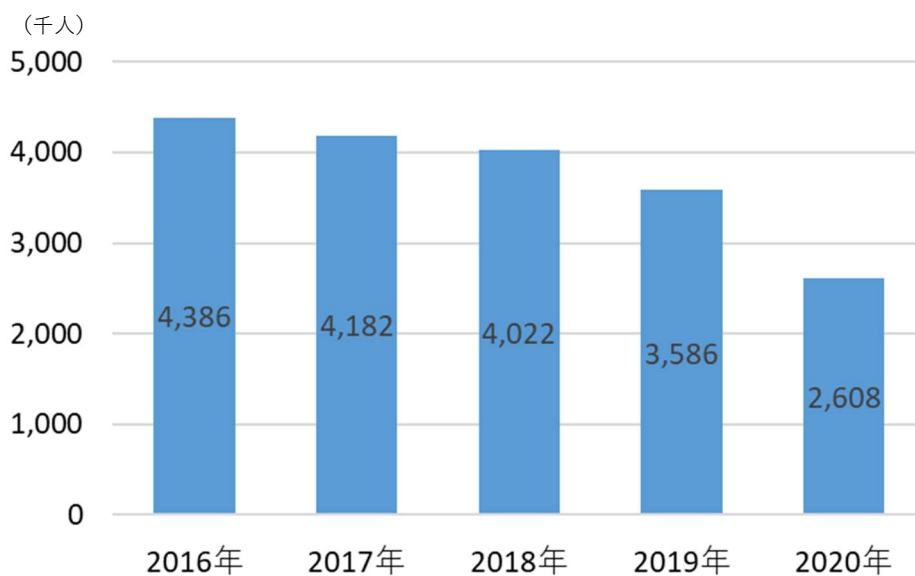
貸切バス、ハイヤー・タクシーの輸送人員及び運送収入は、年々減少傾向にある。

都市間バスは、くしろバス、阿寒バス、根室交通及び北海道バスの4社が運行しており、釧路・札幌間、釧路・旭川間、釧路・北見間、根室（中標津経由）・札幌間を結ぶ路線が運行されている。



出典：北海道の運輸の動き（国土交通省北海道運輸局）
(<https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/kakusyu/toukei/unnyunougoki/nenpou/02.html>)

図 3-29 本地域の貸切バスの輸送人員の推移



出典：北海道の運輸の動き（国土交通省北海道運輸局）
(<https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/kakusyu/toukei/unnyunougoki/nenpou/02.html>)

図 3-30 本地域のハイヤー・タクシーの輸送人員の推移

(5) 補助制度を活用したバス路線の維持・確保

バス路線の維持・確保にあたっては、国、道、市町村、バス事業者がそれぞれ役割分担・協調しながら必要な方策を講じてきたところである。

広域交通を担うバス路線については、国庫補助（地域間幹線系統確保維持費補助金）、北海道補助（主に複数市町村を結ぶ生活バス路線を対象とした広域生活交通路線維持費補助金、市町村が主体となって運行するバス路線を対象とした市町村バス路線運行費補助金）の活用や市町村からの補助により路線の維持確保に取り組んできたところである。

生活圏交通を担うバス路線等については、市町村の地域公共交通網形成計画（地域公共交通計画）に基づき、国庫補助（地域内フィーダー系統確保維持費補助金）や北海道補助（市町村バス路線運行費補助金）の活用や市町村からの補助により路線の維持・確保に取り組んでいる。

(6) 地域における主な利用促進の取組

地域において、公共交通の利用を促進するため、次のような取組を行ってきた。

①鉄道

（釧網線）

- ・利用促進PR事業を実施（釧路市ほか）。
- ・くしろ鉄道めぐり Instagram 投稿キャンペーン（釧路総合振興局）
- ・町外からの通学生徒を対象にした通学定期券購入に対する助成（標茶町、弟子屈町）。
- ・サイクルトレインモニターツアー（JR 釧網本線維持活性化沿線協議会実行委員会）

（花咲線）

- ・地球探検号花咲線プロジェクトとして利用促進PR事業を実施（根室市ほか）。
- ・地域公共交通網計画に基づき、乗継環境の確保など鉄道駅を拠点とした利用しやすい交通ネットワーク構築（厚岸町、浜中町）。
- ・くしろ鉄道めぐり Instagram 投稿キャンペーン（釧路総合振興局）

②バス路線

- ・満70歳以上の方を対象に路線バスでのおでかけを支援（釧路市高齢者外出促進バス事業）【広域バス、市町村内バス】
- ・満70歳以上の方を対象にバス利用に対する助成（釧路町いきいきシニアサポート事業）【広域バス、市町村内バス】
- ・高齢者の定期券購入助成（釧路市・釧路町）【広域バス、市町村内バス】
- ・路線バスプレミアム付き回数券（根室市）【広域バス、市町村内バス】
- ・町内の高校に通学する生徒に対する通学費補助（別海町・標津町）【広域バス、市町

村内バス】

- ・ 町民へのバス代金補助（羅臼町）【広域バス、市町村内バス】
- ・ 公共交通ガイドマップ、バスマップ（釧路町、弟子屈町）【広域バス、市町村内バス】
- ・ バス体験試乗会（弟子屈町）【市町村内バス】
- ・ 釧路市内のほぼすべての路線で電子マネーW A O N導入（令和4年（2022年）4月1日～）【広域バス、市町村内バス】
- ・ くしろバス、阿寒バス、根室交通の三事業者が連携し、「4 / 7 days フリーバスポート」（釧路・根室・中標津・羅臼などが7日間のうち4日乗り放題）を販売している。WEBでも購入可能。【広域バス】
- ・ 北海道運輸局と道東のバス事業者は、令和4年（2022年）1月より、道東エリアのバスの路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行えるWEBサイトを構築する実証実験を実施。【広域バス】

（7）地域公共交通確保に向けた関係者のこれまでの取組

「2-3（2）地域公共交通網形成計画」のとおり、当地域の市町村では生活圏交通を中心とした公共交通ネットワークの構築に向け、地域公共交通網形成計画を策定し、公共交通網の形成を通じて地域の公共交通確保の取組を実施してきたところである。

当地域では7市町村において地域公共交通網形成計画を策定（令和4年（2022年）11月1日現在）しており、これら市町村においては、計画策定に際し、利用実態などの調査を実施し、計画策定後は市町村地域公共交通活性化協議会での協議に基づき、運行形態の見直しや利用促進などの取組が行われている。

また、他の市町においても、地域公共交通計画策定に向けた取り組みが始まっている。

個別の路線については、長距離バス路線（釧路羅臼線、釧路線（根室線））について令和4年（2022年）に関係者による協議を行っている。また、JR標津線代替バス路線に関する協議も行っている。

地域公共交通網計画は、令和2年（2020年）6月の一部改正前の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく地域公共交通に関する計画。これら計画を策定済みの市町村においては、令和2年（2020年）6月の一部改正後の法律に基づき、地域公共交通に関する計画を策定予定。

(8) 広域バス路線の現状について

市町村地域公共交通網形成計画、市町村が実施した利用実態調査、市町村地域公共交通活性化協議会における議論や市町村及びバス事業者へのヒアリングを踏まえ、次のとおり路線の現状を整理する。

路線名(路線延長)・運行事業者・関係自治体	現状	現在の取組
遠矢線(20.6km) くしろバス 釧路市・釧路町	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路駅前～三映団地(平日8便、土日祝4便)、三映団地(平日9便、土日祝6便)を運行。東高校、イオン釧路店などに停車。 ・釧路駅前発は、通学目的の利用が29%、買い物目的が30%。三映団地発は、通勤目的が30%、通学28%。多様な目的で利用され、釧路駅前、イオン釧路店、東高校での乗降が多い。 ・令和3年(2021年)10月1日、医療機関前に停留所を新設し利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学、買い物等の利用者が多く、路線の確保は必要であり、利便性向上に取り組んでいる。
たんちょう線(18.7km) くしろバス 釧路市・釧路町	<ul style="list-style-type: none"> ・まりも団地～イオン釧路店(平日5便、土日祝9便)、イオン釧路店～まりも団地(平日5便、土日祝9便)を運行。商業高校、公立大学、イオン昭和店・釧路店などに停車。 ・まりも団地発は、買い物目的の利用が45%、通学9%。イオン釧路店発は、買い物目的38%、通学目的21%。イオン釧路店、イオン昭和店での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、通学の利用者が多く、路線の確保は必要であるため、利便性向上に取り組んでいる。
南北線(系統1)(18.4km) くしろバス 釧路市・釧路町	<ul style="list-style-type: none"> ・東高校～第2若草団地(平日12便、土日祝9便)、第2若草団地～東高校(平日12便、土日祝9便)を運行。湖陵高校、工業高校、東高校、市立病院、三慈会病院、労災病院、イオン釧路店などに停車。 ・東高校発は、通勤目的の利用が29%、通学18%、通院13%。若草団地発は、通勤目的20%、通学17%、通院14%。日常の足として様々な目的で利用されている。釧路駅前、市立病院、イオン釧路店での乗降が多い。 ・釧路町予約制デマンドバス「昆布森イオン線」と接続。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤、通学、通院の利用者が多く、路線の確保は必要であるため、利便性向上に取り組んでいる。

<p>豊美線 (7.6km) くしろバス 釧路市・釧路町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路駅前～湿原の風アリーナ(平日10便、土日祝8便)、湿原の風アリーナ～釧路駅前(平日10便、土日祝8便)の運行をしてきたが、釧路市地域公共交通活性化協議会(令和4年(2022年)7月)において利用者の少ない便を減便することとし、令和4年(2022年)10月1日より、釧路駅前～湿原の風アリーナ(平日6便、土日祝7便)、湿原の風アリーナ～釧路駅前(平日6便、土日祝7便)を運行。イオン釧路店などに停車。 ・釧路発は、通勤目的の利用が30%、通学18%、買い物20%。アリーナ発は、通勤目的33%、通院8%。釧路駅前、イオン釧路店での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤、通学、買い物、通院と様々な目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、利便性向上に取り組んでいる。
<p>イオン美原線 (8.9km) くしろバス 釧路市・釧路町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路駅前～孝仁会記念病院(平日8便、土日祝4便)、孝仁会記念病院～釧路駅前(平日7便、土日祝4便)の運行をしてきたが、釧路市地域公共交通活性化協議会(令和4年(2022年)7月)において買い物利用者の需要が高いことから増便することとし、令和4年(2022年)10月1日より、釧路駅前～孝仁会記念病院(平日8便、土日祝6便)、孝仁会記念病院～釧路駅前(平日8便、土日祝6便)を運行。孝仁会記念病院、イオン釧路店などに停車。 ・釧路駅前発は通勤目的の利用が33%、通院16%、通学12%。孝仁会記念病院発は、通勤目的51%、通院10%、通学8%。釧路駅前、労災病院での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤、通院、通学と様々な目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、利便性向上に取り組んでいる。
<p>イオン線 (17.9km) くしろバス 釧路市・釧路町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン昭和店～博物館(平日11便、土日祝12便)、博物館～イオン昭和店(平日9便、土日祝11便)を運行。商業高校、湖陵高校、工業高校、公立大学、イオン昭和店・釧路店、市立病院、市民文化会館、博物館などに停車。 ・イオン発は、買い物目的の利用が約33%、通学19%、通勤19%。博物館発は、買い物目的26%、通勤19%、通学17%。湖陵高校、イオン釧路店、イオン昭和店での乗降が多い。 ・市単独補助路線として運行していたが、令和3年(2021年)10月1日より国庫補助路線として運行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、通勤、通学と様々な目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、利便性向上に取り組んでいる。

<p>別保線 (18.3km) くしろバス 釧路市・釧路町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路駅前～双河辺 (平日 2 便)、双河辺～釧路駅前 (平日 3 便) を運行。東高校、イオン釧路店、別保駅、役場などに停車。 ・釧路発は、通学目的の利用が 27%、買い物 18%。双河辺発は、通勤 27%、通学 13%。様々な目的で利用されている。東高校、イオン釧路店での乗降が多い。 ・令和 3 年 (2021 年) 10 月 1 日より、路線を再編し、現行路線により運行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学、通勤、買い物と様々な目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、利便性の向上に取り組んでいる。
<p>厚岸釧路線 (66.1km) くしろバス 釧路市・釧路町・厚岸町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くしろバス本社～子野日公園 (平日 5 便、土日祝 4 便)、子野日公園～くしろバス本社 (平日 5 便、土日祝 4 便) を運行。厚岸翔洋高校、北陽高校、工業高校、町立病院、市立病院、三慈会病院、イオン釧路店、厚岸駅、役場などに停車。 ・通学目的の利用が 52%、通院 19%、買い物 13%、通勤 13%。明輝高校、釧路駅前、イオン釧路店での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学、通勤、買い物と様々な目的で利用されており、厚岸町と釧路市を結ぶ唯一のバス路線であり、路線の確保は必要である。 ・また、浜中町の高校生等も利用する路線 (町営バス乗り継ぎ) であり、路線の確保は必要である。 ・市町の計画及び関係者による協議により令和 2 年度 (2020 年度) に路線を再編。
<p>阿寒線 (78.6km) 阿寒バス 釧路市・(旧阿寒町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路駅前～阿寒バスセンター (7 月～10 月：平日土日祝 4 便、11 月～6 月：平日土日祝 3 便)、阿寒バスセンター～釧路駅前 (7 月～10 月：平日土日祝 4 便、11 月～6 月：平日土日祝 3 便) を運行。阿寒高校、高専、釧路空港、ショッピングセンターなどに停車。 ・釧路発は、観光目的の利用が 31%、買い物 26%、通院 17%。阿寒発は、観光目的 28%、通学 22%、買い物 15%。釧路駅前、阿寒高校、阿寒湖温泉での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の通学、買い物、通院に利用されており、釧路市阿寒地域と釧路地域を結ぶ唯一の公共交通であり、路線の確保は必要であるため、利便性の向上に取り組んでいる。
<p>鶴居線 (41.0km) 阿寒バス 釧路市・鶴居村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路市立病院～グリーンパークつるい (平日 5 便、土日祝 4 便)、グリーンパークつるい～釧路市立病院 (平日 5 便、土日祝 5 便) を運行。工業高校、北陽高校、商業高校、市立病院、イオン昭和店、湿原展望台などに停車。 ・釧路発は、通学目的の利用が 30%、通院 12%。鶴居発は、通学目的 24%、買い物 13%。釧路駅前、北陽高校、鶴居中学校での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学、通院、買い物目的で利用されており、鶴居村と釧路市を結ぶ唯一の公共交通であり、路線の確保は必要であるため、利便性の向上に取り組んでいる。

<p>白糠線（系統1）(34.8km) 白糠線（系統2）(46.7km) くしろバス 釧路市・白糠町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・白糠線（系統1）は、釧路駅前～白糠高校（平日11便、土日祝5便）、白糠高校～釧路駅前（平日12便、土日祝5便）を運行。 ・白糠線（系統2）は、釧路駅前～音別駅（平日4便、土日祝3便）、音別駅～釧路駅前（平日3便、土日祝3便）を運行。白糠高校、日赤病院、白糠駅前などに停車。 ・通学目的の利用が30%、通勤17%、買い物15%。釧路駅前、大楽毛、白糠高校での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本バス路線は、通学、通勤、買い物目的で利用されており、釧路市音別地域と釧路地域を結ぶ唯一のバスであり、路線の確保は必要であるため、利便性の向上に取り組んでいる。
<p>標津西春別線（60.7km） 阿寒バス 別海町・中標津町・標津町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・標津～西春別（平日5便、土日祝3便）、西春別～標津（平日4便、土日祝2便）運行。標津高校、中標津高校、中標津農業高校、町立病院、役場などに停車。 ・標津発は、通学目的97%、通勤3%、西春別発は、通学目的90%、通勤4%。中標津高校、中標津農業高校での乗降が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学、通勤目的で利用されており、中標津町と別海町、標津町を結ぶ唯一の公共交通がバス路線であり、路線の確保は必要であるため、標津線代替輸送連絡調整協議会において路線の維持・確保について検討している。
<p>中標津線（52.6km） 根室交通 根室市・別海町・中標津町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・厚床～中標津BT（平日5便、土日祝2便）、中標津BT～厚床（平日5便、土日祝2便）運行。別海高校、中標津高校、町立病院、厚床駅前、役場などに停車。 ・厚床発は、通学目的の利用が63%、通院13%。中標津発は、通学目的77%、通勤9%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学、通勤目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、標津線代替輸送連絡調整協議会において路線の維持・確保について検討している。
<p>中標津空港線（84.4km） 根室交通 根室市・別海町・中標津町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根室交通有機営業所前～中標津空港（平日土日祝4便）、中標津空港～根室交通営業所（平日土日祝4便）運行。別海高校、中標津ターミナル、中標津空港などに停車。 ・主に中標津空港利用者、高校生の通学に利用されているが、利用者が減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港利用、通学目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、中標津空港利用促進期成会の検討・協議状況を注視していく。
<p>釧路羅白線（165.5km） 阿寒バス 釧路市・釧路町・標茶町・別海町・中標津町・標津町・羅臼町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路市立病院～羅臼営業所（平日4便、土日祝2便）、羅臼営業所～釧路市立病院（平日4便、土日祝2便）運行。羅臼高校、標津郵便局（標津高校）、中標津高校、町立病院、癌センター、労災病院、日赤病院、三慈会病院、市立病院、イオン釧路店などに停車。 ・通学目的の利用が31%、観光14%、通院11%、通勤8%。訪日外国人観光客の利用はコロナ拡大以降ほぼなくなった状態。 ・路線延長が長いいため運行費用が大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光目的の利用者が多い路線であり、さらなる利用促進が必要なため、くしろバス、阿寒バス、根室交通の三事業者が連携した「4/7 days フリーパスポート」（釧路・根室・中標津・羅臼などが7日間のうち4日間乗り放題）を販売（WEBでも販売）。また、道東エリアのバス路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行えるWEBサイト構築（令和4年（2022年）1

		月より実証実験として実施)。
<p>釧路線（根室線） （142.5km） 根室交通・くしろバス 根室市・釧路市・釧路町・ 浜中町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根室交通有磯営業所前～くしろバス本社（平日3便、土日祝2便）、くしろバス本社～根室交通有磯営業所前（平日3便、土日祝2便）運行。市立釧路病院、三慈会病院、東北北海道病院、日赤病院、労災病院、孝仁会記念病院、イオン釧路店などに停車。 ・通院目的の利用が70%、観光10%。釧路市へ通院する根室市民の利用者が多い路線。 ・路線延長が長いいため運行費用が大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通院、通勤目的で利用されており、路線の確保は必要であるため、北海道、関係自治体、バス事業者により路線の見直しを含め検討・協議中（令和4年度（2022年度））。 ・観光目的の利用者もいる路線のため、さらなる利用促進が必要なため、くしろバス、阿寒バス、根室交通の三事業者が連携した「4/7 days フリーパスポート」（釧路・根室・中標津・羅臼などが7日間のうち4日間乗り放題）を販売（WEBでも販売）。また、道東エリアのバス路線案内、予約・購入・決済、チケットレス乗車を一括して行えるWEBサイト構築（令和4年（2022年）1月より実証実験として実施）。

出典：「釧路市地域公共交通網計画（平成29年（2017年）6月）」、「釧路市地域公共交通再編実施計画（令和元年（2019年）9月、令和3年（2021年）9月変更）」、「釧路町地域公共交通網形成計画（平成30年（2018年））」、「厚岸町地域公共交通網形成計画（平成30年（2018年）3月）」、「浜中町地域公共交通網形成計画（令和2年（2020年）5月）」、「弟子屈町地域公共交通網形成計画（令和元年（2019年）6月）」、「鶴居村地域公共交通プラン（鶴居村地域公共交通網形成計画）（令和2年（2020年）5月）」、「白糠町地域公共交通網形成計画（平成29年（2017年）3月）」、標津線代替輸送連絡調整協議会、釧路総合振興局による聞き取り調査、根室振興局による聞き取り調査

（釧路市：<https://www.city.kushiro.lg.jp/machi/tkeiei/1006034/1006048.html>）

（釧路町：<http://www.town.kushiro.lg.jp/information/20301/00041/215020450409.html>）

（厚岸町：<https://www.akkeshi-town.jp/gyosei/seisaku/machizukuri/koutsuumoukeisei/>）

（浜中町：<https://www.townhamanaka.jp/kakuka/soumuka/koutuuanzen/2020-0605-1520-32.html>）

（弟子屈町：<https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/kurashi/soshikiichiran/kankyoseikatsuka/2/3238.html>）

（鶴居村：<https://www.vill.tsurui.lg.jp/soshikikarasagasu/juminseikatsuka/seikatsukankyokakari/3/kokyokotsu/index.html>）

（白糠町：<https://www.town.shiranuka.lg.jp/section/hoken/nfml630000001ivi.html>）

（公共交通で旅するひがし北海道：<https://travel.willer.co.jp/campaign/hokkaido/>）

（くしろバス：<http://www.kushirobus.jp/index.html>）

（阿寒バス：<http://www.akanbus.co.jp/>）

（根室交通：<https://www.nemurokotsu.com/>）

3-4 地域の公共交通の課題

(1) 市町村・バス事業者へのヒアリングにおける主な意見等

<p>【市町村】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 高校生の通学など日常生活に不可欠な交通手段として維持する必要がある。・ 利用者が減少している。・ 乗客が少ない便がある。・ バス路線を維持するための財政負担が増加している。・ 公共交通を利用したいと思える利用促進策を展開する必要がある。・ 釧路市内でどう乗換したらよいか分かりにくい。・ 路線のあり方を見直し利用実態にあった路線へ再編する必要がある。・ 関係する自治体が路線について議論する場が必要である。
<p>【バス事業者】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経営努力を続けているが、路線維持も厳しい状況になっている。・ 便数を減少しても経費を大きく下げることにはつながらない。・ 事業者が単独で路線を維持することは困難である。・ コロナ禍による観光客減少の影響を受けている。・ 路線の見直しについて話合う場が必要である。・ 国庫補助の要件を満たさなくなる路線が発生する可能性がある。・ 給与水準を上げることが難しく、運転手の募集をかけても応募がない。

(2) 地域の公共交通の課題の整理

公共交通の現状、利用状況、バス事業者等へのヒアリングなどから、地域の公共交通における課題を次のとおり整理する。

課題1：広域交通・生活圏交通の維持・確保

通勤・通学、買い物及び通院等の生活目的で利用されることが多い広域交通は、生活圏である中核都市（釧路市）や地域中心都市（根室市・中標津町）と周辺市町村を結ぶ重要な交通の一つである。広域交通を維持・確保するとともに、これら広域交通と生活圏交通とのネットワークを構築することが必要である。

課題2：利用実態に応じた持続可能な公共交通の確保

通勤・通学、買い物及び通院等の生活目的で利用されることが多い広域交通は、生活圏である中核都市（釧路市）や地域中心都市（根室市・中標津町）と周辺市町村を結ぶ重要な交通の一つである。利用実態に応じた運行規模の適正化を図り、持続可能な公共交通を確保していくことが必要である。

課題3：関係者による情報共有・検討の活発化

これまで地域生活交通確保対策協議会など生活交通の確保を図るための協議の場を通じ、関係者による協議等を行ってきたところであるが、利用実態に応じた路線検討を行うためには、路線単位あるいは地域単位などでの情報共有・検討をより活発化していくことが必要である。

課題4：公共交通の利用者数の拡大

地域住民による公共交通の利用促進とともに、アフターコロナを見据えた観光目的での公共交通利用者を増加させることが必要である。

課題5：各モード間の接続性の向上及び接続のわかりやすさの確保

広域交通、生活圏交通の各交通モード間での接続性の向上及び接続のわかりやすさの確保が必要である。

課題6：広域交通と生活圏交通との有機的な連携による生活の足の確保

本地域内における生活関連施設は、各市町村の市街地に集積している一方、通学・通院など生活実態を踏まえ、地域内で安心して住み続けるためには、郊外部・農村部等から各市街地までアクセス可能な交通モードの確保が必要である。